

広徳寺通信

LETTER FROM KOUTOKUJI TEMPLE

65

2016年秋号



夏のお寺の様子！

▶ お盆の行事を勤めました

今年のお盆は暑かったですね！8月9日から16日まで一週間、棚経に回らせていただきました。13日のお墓経では去年に続き、永代供養塔での合同供養もさせていただきました。また、供物の持ち帰りにもご協力いただきありがとうございます！

▶ 盂蘭盆会の法要をとりおこないました

今年のお盆の法要では、青森県儒童寺副住職 浅山賢正師をお招きしてのお説教となりました。副住職と歳が近いにもかかわらず、落ち着いて地に足のついた姿勢だったことに驚いた方も多かったのではないのでしょうか。法要後、水塔婆を乗せた大灯籠を海に流し、今年のお盆も終わりを迎えました。

▶ 寺こや自然塾が行われました！

おかげさまで今年で7回目。7月3日(日)に小学生たちがお寺に集い、坐禅や読経、掃除にはげみましたよ。今回は婦人会の協力で、べこ餅づくりに挑戦！楽しい一日を過ごしました。また、「チャレスポ」という別企画では、ネパール森において小学生への坐禅指導もしましたよ！

6年前の広徳寺通信を見てみると、「お盆明けて梅を干す」というキャプションの写真がありました。今年もまた梅が干されます。当たり前のことを当たり前に行う。自然もまたそうであるし、私たちの営みもまたそう。そこに仏さまの教えがあるのでしょうか。

春のお寺の行事予定

▶ 梅花流詠讃歌

毎週土曜日 午後1時半～3時半
毎週の練習会の他に、講習会や検定会、大会に参加しています！

▶ 婦人会

毎週火曜日 午前9時半～11時半
お寺参りのお手伝いの他、毎週火曜日に手芸などのお楽しみ会を開催。成年会との懇親会(温泉)や忘年会もありますよ！

▶ 朝ヨガ

毎月第3木曜日 朝5時45分～6時45分
今年ラスト、朝のひとときをお寺で！
9月15日(木)

▶ 写経

毎月第2日曜日 午後3時～4時
筆をもって心静かにシャンとする。
9月11日(日)・10月9日(日)
11月13日(日)・12月11日(日)

▶ 坐禅

毎月第3日曜日 午後4時～5時
リンと背筋を伸ばしてすわります。
9月18日(日)・10月16日(日)
11月20日(日)・12月18日(日)

tel 0138-73-2032

※ 日程が変更することがあります。
事前にお問い合わせください。
※ 気軽に手ぶらでお越しください。

▶ お寺の庭より - お寺の日々をつれづれに

今年の13日のお墓参りは土曜日ということもあり、例年以上のお参りのにぎわいでした。普段は仏様に手を合わせることの少ない人もこの時ばかりは違います。姿の直接見えない方への感謝を伝えるすばらしい光景です。

よくお檀家さんから、「お寺はいつお参りに行っても掃除が行き届いていて、すがすがしい思いでおまいりができますよ」というありがたいお言葉を頂戴いたします。お寺の門をくぐると両側にはきれいな花々。掃き掃除された境内。花供物の整理されたお墓。この影にはいろいろな方の並々ならぬ継続の力があることを忘れてはならないでしょう。行いを継

続していくことを「行持」といいます。忘れてはならない大事な仏行なのです。

お釈迦様は最後のお説法で仏行を「少水の常に流れて、則ちよく石を穿つ(うがつ)がごとくすべし」とおっしゃっています。すこしの努力でも続けていけば本物の大きな力になるということです。この本物の大きな力がすべての心を動かすのです。

13日のお墓参りの方々皆様も、この大きな目に見えぬ力を感じていただいたものと思います。

住職 高橋 元英

ミニミニ法話 - お檀家さんのおしゃべりで気づいたこと

あなたがさいごに帰る場所はどこなのでしょう？

なぜ、お仏壇の前で手を合わせるのでしょうか。なぜ、お墓に花を手向けるのでしょうか。

お盆はご先祖様が、今は亡きあの方が帰ってくる日であるといひます。亡き人は長い長い旅に出られるといひます。その旅がさみしくないように、生前の思い出をたくさんもたせてあげてくださいね、とお通夜の席でも聴いたことがあるかもしれません。

旅とは何なのでしょう。作家の池澤夏樹さんは、「自分が旅だと思って一歩踏み出した時から旅は始まる」といひます。近くのスーパーへ行くにも、お母さんからすればただの買い物、3歳の子にしてみれば、スーパーに一人で行くことですら冒険になるように、目的地がどこであれ自分が旅と思った瞬間から、その歩みは旅となります。

そして旅にはもう一つ条件があります。それは、帰る場所があるということ。帰る場所のない旅は、それは放浪となってしまいます。放浪は自由かもしれませんが、そこには常に不安と恐怖とがつきまといひます。

今は亡き人、ご先祖様が帰る場所は、ご自宅のお仏壇であり、お墓であり、そしてお寺であります。あなたが手を合わせ祈る場所、それが亡き人の帰る場所なのです。私たちが花を手向け、香りを焚き、お供物をお供えしてその場を荘厳し、手を合わせお経をお唱えする時、そこは帰る場所となり、ご先祖様は安心するのです。

そこは亡き人やご先祖様の帰る場所ばかりでなく、手を合わせているあなた自身の帰る場所でもあるのです。ご先祖様をご供養するとき、なんだか安心な気持ちになるのは、そこがあなたの帰る場所であり、ご家族や、ご近所の方、遠いご友人、すべてのご縁によって生かされているあなた自身のいのちのありように気づく場所だからなのです。

仏事 Q&A - 仏教や仏事についてのご質問にお答えします。

Q お寺さんへ納める包みに何と書けばいいですか？

お坊さんに包む場合、「御布施（おふせ）」と記し、下に家門名を書きます。基本的に、お寺に納めるものはほとんどすべて「御布施」です。いっぽう、法事をお勤めしたお施主さんに包むものには、「御仏前（おぶつぜん）」と記します。これは、仏さまにお供えするものです。また、「御

POINT

お坊さんへは「御布施」、仏様に納めるものには「御仏前」と書きます。

霊前（おれいぜん）」というのは49日までの仏さまへお供えするものです。ただ、「御布施＝お経料」というのは間違い。布施とは、貪らないという修行の一つ、仏さまの教えの価値をお金で代えることはできません。分かち合いの心をはぐく

コトノハ ヒロバ - 力をわけてもらえる言葉をあなたに

こんな映画を観ました！

kotonoha hiroba

▶ 『アンコール！！』 2012年 / 英

へんくつな頑固爺さんアーサーが、最愛の妻マリオンの死を受け入れようと、彼女がすべてを注いでいた合唱団にみずから参加し、コンクールにまで出場するお話です。無愛想で人付き合いも悪く、息子とのあつれきも抱えた爺さんですが、そのワル爺さんが、ガンを再発したマリオンの死を経て、妻がほんとうに大切だったものを理解しようと、自分の身を大っ嫌いだった場所に投じていく姿を見ていると、励まされてきます。クライマックスはここではお話しできませんが、愛するがゆえの最後のどんでん返しは、観るものに感動を与えます。どうしても爺さんを応援したくなってしまう、涙なしには見れない作品です。秋の夜長の一本にどうでしょう？



センス・オブ・ワンダー

レイチェル・カーソン

たとえ、たったひとつの星の名前すら知らなくとも、子どもたちといっしょに宇宙の果てしない広さのなかに心を解き放ち、ただよわせるといった体験を共有することはできます。そして、子どもといっしょに宇宙の美しさに酔いながら、いま見ているものもつ意味に思いをめぐらし、驚嘆することもできるのです。

原題の「センス・オブ・ワンダー」は、いわば「ハツとして、ワアッ！って感動する感性」のこと。年を重ね大人になるにつれて、子どもがするような（いっけん大げさにも見える）驚きが少なくなるように思ひます。おそらくそれは、いま目の前の風景が「いつもと同じ」「繰り返されたもの」「また訪れるだろう」として流されてしまっているから。その住人にとっては当たり前風景も、旅行者には感動をもって迫ってくるように、いま生活しているこの風景をいかに感動をもって受け止めていくか。お釈迦様の「きづきごとり」もそのようなものであったのではないかと想像します。上遠恵子訳「センス・オブ・ワンダー」（学社）より。

Rachel Carson